

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在地	東京都世田谷区羽根木 1-7-11
園名	ポピンズナーサリースクール羽根木

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音に関する探究活動

<テーマの設定理由>

音はお子さまたちが日常生活で触れる身近なものであり、音によって生じるさまざまな現象や特性について、お子さまたちの興味関心をさらに深めるため。また、日頃の保育の中でも、歌を歌ったりダンスを踊ったり、楽器あそびをしたりすることにも関心が高く、グローバルな視点や音に触れてお子さまたちの視野が広がるような経験をしてほしいという願いのもと、『音に関する探究活動』をテーマとして設定する。

2. 活動スケジュール

① 2025年8月21日

目的：世界の音をきいてみよう

方法：オンラインによるワールドツアーに参加し、世界の音楽（楽器）に触れる

② 2025年9月30日

目的：ケニアを知り、聞こえる音に耳を傾けよう

方法：オンラインによるワールドツアーに参加し、ケニアのナイロビを訪れる

③ 2025年10月28日

目的：いろいろな音を作ってみよう

方法：専門の講師の先生をお招きしてルーム内での音探し

④ 2025年11月14日

目的：動物園に出かけて、自然や動物たちの奏でる音を見つけよう

方法：音探しの旅（井の頭自然文化園）

⑤ 2025年12月5日

目的：本物の音に触れて一緒に歌ってみよう

方法：専門の講師によるコンサート

⑥ 2026年1月20日

目的：「本物に触れる体験」を通して、お子さまたちの想像力と表現力を育もう

方法：専門の講師によるミュージカルショー＆ミュージカルレッスン

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・楽器（ツリーチャイム・キーボード・スピーカー等）の購入
- ・ルーム内、戸外での音探しで使用するもの（画用紙・ボール等）の購入
- ・オンラインワールドツアー、音探しの旅、コンサート、ミュージカルレッスン参加に必要な手配
- ・保育室の環境設定(世界の国に触れるための図鑑など)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

4・5歳児クラスで月1回を目安に実施。

日常生活の中にはたくさんの音があふれている。「音って何だろう」とお子さまたちと一緒に考え、「なぜ?」「どうして?」を引き出ししながら、出てきたつばやきから次の問いに繋げていく。

- ① ポピンズプラスの世界を身近に感じる『ワールドツアーズ』のオンラインツアーに参加して、世界の楽器に触れる活動をおこなう。オーストラリア、ブラジル、ベトナムの楽器を紹介してもらい、実際にいろいろな楽器に触れてみる。
- ② ポピンズプラスの世界を身近に感じる『ワールドツアーズ』のオンラインツアーに参加して、ケニアと中継をつなぎ、太陽と緑の街、ケニアのナイロビを訪れる。ケニアの動物のお話や現地の幼稚園のお友だちとの交流を楽しむ。
- ③ 専門の講師の先生をお招きして、ルーム内での音探しを楽しむ。絵本『はじめまして』の歌に合わせて読み聞かせ、音あてゲームやキーボードに合わせて一緒に歌う、楽器を使わなくても音を鳴らせることなど、いろいろな音を作るレッスンをうける。
- ④ 電車に乗り、「井の頭自然文化園」へ音探しの旅へ出かける。当日までに園内マップのぬりえをしたり、見てみたい動物について図鑑で調べたり、事前の取り組みをすることでお子さまたちの期待感を高め、楽しみな気持ちで当日を迎えられるようにする。現地では自然や動物たちの奏でる音など、自分のまわりにはどんな音があるのか探すことを楽しむ。
- ⑤ 専門の講師の先生をお招きして、コンサートを鑑賞する。自分たちの運動会の競技で使用した『サークル・オブ・ライフ』や『アンダー・ザ・シー』などのディズニーメドレーをはじめ、ジブリメドレー、みんなで身体を動かして歌える曲、クリスマスソングなどの演奏を楽しむ。
- ⑥ 専門の講師の先生をお招きして、ミュージカルショーの観劇およびミュージカルレッスンを楽しむ。プリンセスやプリンスに扮したプロの方による美しい歌声とともにつづられる物語の世界に浸りながら、「本物に触れる体験」をする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ① オーストラリア、ブラジル、ベトナムの楽器を紹介してもらい、実際にいろいろな楽器に触れてみる。最初は少し緊張する姿も見られたが、自由に鳴らしてよいことがわかると自ら楽器に触れ、「どんな楽器なのかな?」「どんな音がするのか?」と、見慣れない楽器に興味津々な姿がみられた。それぞれ楽器を観察したり、試しながら鳴らしてみたり、自分で鳴らす音に耳を傾けじっくり聞こうとするなど、本物の楽器に触れ音色を感じることを楽しんでいた。
- ② 空港からみんなそれぞれのポピンズパスポートを持って出発し、キリンやサイについて教わったり、クイズにチャレンジしたり、最後はケニアのお友だちが過ごす幼稚園を訪れたりなど、プログラム内容に興味をもつ姿がみられた。ケニアのお友だちの好きなおやつやおそびを教えてもらったり、お互いの国の手あそびを披露したり、交流を楽しみながらケニアから聞こえる音に耳を傾けていた。画面の向こう側から聞こえてくる音や聞きなれない言語、ケニアの人たちに少しドキドキする様子も見られたが、スワヒリ語を教えてもらい「ジャンボ(こんにちは)」「アサンテ(ありがとう)」とご挨拶をしたり、クイズでは「まるー」「ばつー」と元気いっぱいこたえたり、クイズや手あそび等を通じて、お子さまたちの興味・関心が広がっていた。「いまのなんのおとかな?」「どうしておこはあかるいかな?」「ざくざくってきこえたね?」など、気づいたことや発見したことについてお友だちと会話をする姿も見られた。
- ③ 先生の楽しいレッスンに大喜びする姿がみられた。「合奏ってなにか?」という先生の問いかけからはじまった全身を使って楽しむ音あそびでは、手を叩いたり、手で膝を叩いてみたり、足ぶみをしてみたりなど、先生の動きを真似ながら、自分で音を作ることを楽しんでた。また、自分たちの身体が楽器になったような感覚を楽しむ姿もみられた。自分たちの身のまわりのさまざまな音に気づいたり、新しい音を見つけたりすることを楽しんでた。
- ④ 事前の取り組みでは、「この動物をみてみたい!」「これはどんな動物かな?」など、園内マップをみながらお子さま同士で会話する姿がみられた。「あと〇日だよ?」と当日までのカウントダウンをして楽しみにしている姿もみられた。当日は電車に乗るという特別な体験に、お子さまたちの表情もわくわくしていた。自分たちでぬりえをした園内マップを手に、自分の気づいたことを伝え合いながら、園内をまわる姿があった。当初は園内はグループごとにまわる予定にしていたが、それぞれ主体的に動く姿があり、危険のないように見守りながら、お子さまたちの自己肯定感をサポートするようにした。
- ⑤ いろいろな楽器の音に興味を示す姿がみられた。また、楽器に触れることを楽しんだり、音を鳴らして「きれいな音だったね」などお友だちと会話したりする姿もあった。コンサートで体験する生演奏には、空気を震わせる音の響き、演奏者の息遣い、会場全体で共有する感動の瞬間など、CDなどの録音では味わえない特別な魅力があると感じた。とくに、自分たちの運動会の競技で使用した『サークル・オブ・ライフ』や『アンダー・ザ・シー』などのディズニーメドレーの演奏では、声を出して喜ぶ姿があった。知っている曲を口ずさんだり、はじめての曲でも身体を動かしたり、クリスマスソングではみんなで楽器を使って音を鳴らしたり歌ったりすることを楽しんでた。
- ⑥ 美しい歌声とともに綴られるプリンセスと王子様の物語からレッスンがはじまり、目の前のイラストを見つめながら、お子さまたちは物語の世界にどっぷりと浸っていた。自分たちの運動会の競技で使用した『アンダー・ザ・シー』が流れると、「運動会で踊ったね!」と興奮する姿がみられた。自分たちの思い出と重なり、弾けるような笑顔が溢れていた。魔法のじゅうたんに乗るプリンセスと王子様のお話では、うっとり聞き入る姿もあった。「本物に触れる体験」を通して、お子さまたちの想像力と表現力が大きく花開いたひとときとなった。

①



②



③



④



⑤



⑥



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・4・5歳児クラスでの活動のため、学年によって感じ方が違うかなと思うところもあったが、学年に関係なく、身近な音についてのさまざまな気づきがあることは大きな発見だった。お子さまたちの可能性を信じ、お子さまたちがさまざまなことに気づけるように環境を設定したり、言葉をかけていったりすることが必要であることをあらためて感じる機会となった。
- ・楽器だけでなく、身体を使って簡単に音が鳴らせることに気づき、楽器に対して興味がうすかったお子さまも楽しんで活動に参加していた。はじめは音が鳴ること自体を楽しんでいたが、徐々に楽器による音色の違いを楽しんだり、お友だちと同じ楽器を鳴らしたり、同じタイミングで鳴らしたりする楽しさに気づき、意欲的に取り組む姿がみられた。
- ・講師の先生や保育者が曲を演奏すると、曲にあわせて演奏することにも興味をもって取り組んでいた。さまざまな楽器を試して音あそびをする中で、別の楽器への興味をもつ様子も見られ、楽しく活動していたことが伝わってきた。
- ・活動ごとにさまざまな音の種類があることに気づき、お子さまたちの表情もわくわくしていた。
- ・グローバルな視点と音に触れることにより、音は言語をこえてつながることができるものであり、音への探求から多様な人とつながり、表現していく楽しさをお子さまたちが味わっているように感じた。
- ・お子さまが「音に関する探究活動」を通じて、日常生活の中のさまざまな音に興味を示すようになった。（この音は海の音に似ているね、この音はあの楽器の音みたい！など。）日常にはたくさんの音があふれていることに気づき、耳を澄ましたり、楽器を作ってみたり、自分のまわりでさまざまな音をみついていた。
- ・お子さまが駅員さんや動物園のスタッフなど、園外の方たちと関わりをもつことで、視野が広がり、園内ではできない経験ができ、一歩踏み出す機会となった。また、保育者自身も心を動かしたり、素敵だと感じることに関心をもったりし、わくわくしながら新しいことにチャレンジする気持ちを持ち続けることが大切だとあらためて感じた。
- ・お子さまたちと一緒にすくわくプログラムに取り組むことで、スタッフのモチベーションもあがった。さまざまな視点から保育についての話をするなど、お子さまと一緒に思いきり楽しむことができた。とくに音探しの旅は、みんなで電車に乗ることができたことなど、遊びの中でお子さま同士で話しており、特別なものとなったと感じている。また、担任にとっても思い出に残る素敵な活動となった。
- ・すべての活動を通じて、お子さまたちが好奇心をもつきっかけを増やせるような言葉かけを心がけることにより、「なんでかな？」と興味関心をもって、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みを通じて、お子さまたちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちを引き続きサポートしていけたらいいなと感じた。